

地域ネットワークニュース

電話0299(93)0294

e-mail mail@kamisushakyo.com

http://www.kamisushakyo.com

第134回
勉強会

感覚統合療法による遊びと発達

なめがた地域総合病院 作業療法士 木鉛聡恵先生



平成20年12月11日(木)午後7時より 神栖市保健・福祉会館 2階 研修室

遊びには視覚や聴覚、触覚、運動感覚など様々な感覚を使うため「子どもは遊びを通して発達する」と言われています。しかし、発達の遅れや偏りの見られる子どもの多くは、その感覚が過敏であったり、鈍感過ぎたりと感覚にバラつきがあるために、感覚情報を自分の中に整理して取り入れることが苦手です。

そのため、自分の周りの環境とうまく関係を保つことができず、場合によってはパニックを起こしたり、騒いだり、時には消極的になり動こうとしないなど、様々な反応を示します。こういった反応は、一見すると「わがまま」「ルールを守れない」「集中力がない」と見られがちですが、実は様々な感覚情報の整理がうまくできないことが要因であると考えられます。

人間の感覚には「味覚・嗅覚・視覚・聴覚・触覚・動く感覚・重力・姿勢」などがあり、それらのほとんどが無意識のうちに働いています。それら無意識の感覚を脳が効率的に統合調整することによって、周りのすべての情報を理解し適切な反応を示すことができ、この感覚の連鎖を「感覚統合」と呼んでいます。

今回の勉強会では、なめがた地域総合病院より木鉛先生を迎え、「自らチャレンジし、それが楽しい」と感じられる遊びを通じて、感覚統合の発達を促す「感覚統合療法」についてお話し頂きます。幼児期の遊びと子どもの発達の関係についてなるほど！と感じることができる勉強会です。



この機会にぜひご参加ください。

第133回
勉強会報告

発達障害の理解と対応

【茨城県発達障害者支援センター 高松秀彦先生】

参加者
83名

講師に茨城県発達障害者支援センターの高松秀彦先生を迎え、主に自閉症の三つ組みの特徴（社会性・コミュニケーション・想像力の障害）と集団場面での対応方法について、ビデオを交えて詳しく説明頂きました。

「知的障害が伴わない発達障害」は集団場面において障害特性が顕著になる場合も多く、幼稚園や保育園の先生方の「気づき」が大切になります。「子どもを理解し、よりよい支援につなげるためには、支援に対して構えることなく“ちょっとした工夫と選択”を子どもの視点で捉えることが必要です」と子どものために「今、何が必要なのか」を考えるきっかけとなりました。

今回の勉強会は第4期発達障害療育者研修会の初日と合同で開催されました。療育者研修会は、様々な職種の方々と課題を共有し合いながら、発達障害の理解を深める機会として、今期は募集定員を大幅に超える62名の参加者でスタートします。研修会については毎回ホームページで報告しますので、ぜひご覧下さい。

